

土地改良区を元気にする情報紙！

水土里ネット パワーアップナビ



〔目次〕

- 地域と共に・・・那須野ヶ原土地改良区連合
- 合併後を訪ねて・・・二宮土地改良区
- 県からのお知らせ・・・第64回農業農村工学会関東支部大会講演会

2013/12

Vol. 4

TAKE FREE

地域と共に

このコーナーでは、地域の農業振興や地域社会との協働・交流活動に取り組んでいる土地改良区を紹介します。

取材先：水土里ネット那須野ヶ原
(那須野ヶ原土地改良区連合)
所在地：那須塩原市接骨木447-8
理事長：渡辺 喜美
設立：昭和45年2月17日
地区面積：4,317ha
組合員数：3,382名

水土里ネット那須野ヶ原では、都市と農村の交流等様々な事業を実施しています。

また、再生可能エネルギーをいち早く取り入れ、太陽光発電や小水力発電、バイオマス発電の開発にも積極的に取り組んでいます。今回は、この取組を中心にお話を伺いました。

◆太陽光発電について教えてください

⇒農林水産省の事業採択を受け、**赤田太陽光発電所(表紙写真)**が本年3月に完成しました。

最大出力は400キロワットで、売電収入を土地改良施設の維持管理費に充当し賦課金を軽減することにより、農家所得の向上並びに地域農業の活性化に繋がるものと期待しています。

発電開始から半年以上が経過し、大きなトラブルもなく稼働しています。今のところ、維持管理の経費はほとんどかかっていません。



発電所には、概要が確認できる看板が設置されています

◆ほかにも発電施設がありますか？

⇒平成4年から農業用水路を利用した**小水力発電施設**を設置し、現在は7基を運用しており8基目を建設中です。

また、新たな取組みとして、戸田調整池における太陽光発電と燃料電池を合わせたテスト事業や

バイオガス発電等のバイオマス実証実験を実施し、**経済産業省から「新エネ百選」に選定**されました。

◆発電施設導入のきっかけは？

⇒農業用水を活用し、二酸化炭素排出削減の取組みに貢献したいと考え、小水力発電を導入しました。施設を増やし、売電収入を維持管理費に充当することにより、当連合では賦課金を**導入前と比較して約6割軽減**できました。

今後は、再生可能エネルギー開発の先駆者として、当連合の経験を研修等において積極的に提供することにより、他地区での農家負担軽減に寄与できればと思います。



小水力発電所
(左)那須野ヶ原発電所

(右)墓沼第1発電所(内部)

◆発電施設導入に際して工夫している点は？

⇒導入前に、**理事を中心とした委員会を設置**し、施設に関して分析・研究しながら検討します。導入費用の妥当性についても同様に検証しています。

その結果を基に受益者に説明し、理解を得られるようにしています。

◆地域社会との交流活動は実施していますか？

⇒①調整池等を利用したトライアスロンやカヌー大会の開催、JRと連携した駅からハイキング開催などの**スポーツ振興支援事業**。

②調整池の防災ヘリ取水基地としての活用、水路における防災訓練実施などの**地域防災支援事業**。

③子供たちの「水」に対する意識向上のため作成した、社会科副読本の小学校への配布、毎年約6,500名の小学生の施設見学への受入れなどの**学校教育支援事業**。

④水と食の大切さについて、子供たちに学ぶ場を提供する「田んぼの学校」を設立し、親子で農作業を体験する**水辺環境体験学習支援事業**。

など、先人達の苦労を後世に継承するため、様々な活動を通して都市と農村の交流を積極的に実践することを心掛けています。



事業活動の様子

(上) 田んぼの学校

(左中) トライアスロン大会(戸田調整池)

(右中) カヌー大会(岩崎頭首工)

(左下) 防災ヘリ訓練(赤田調整池)

(右下) 駅からハイキング(那須疎水)

◆活動を行う上で苦労した点はありますか？

⇒小学生のほかにも、施設の視察について県内外を問わず相当数の申込みがあります。希望団体は自治体や企業、土地改良区等多岐にわたり、連合職員では対応しきれないことから有償ボランティアをお願いしています。

◆活動による地域の変化や反応は？

⇒施設の多面的利用やパンフレットの配布により、水管理者を理解する方が増え、**水路の清掃活動や水路沿いの美化活動が自主的に行われる**ようになりました。

また、土地改良施設を総合学習に活用することにより、**子供たちの「水」に対する意識向上**が図られたのではないかと思います。

◆今後、活動等の予定はありますか？

⇒引き続き、再生可能エネルギーの先駆者として視察研修の受入れを積極的に行っていきたいと思っています。

また、「田んぼの学校」等の水辺環境体験事業の支援や土地改良施設の多面的利用の推進をしていきたいと考えております。

合併後を訪ねて

「合併後の土地改良区運営ってどうなってるの？」そんな疑問をお持ちの方も多はず。このコーナーでは、合併した後の土地改良区運営を紹介します。

取材先：水土里ネット二宮

(二宮土地改良区)

所在地：真岡市石島893-15

(真岡市二宮コミュニティセンター内)

理事長：佐藤 房治

設立：平成23年4月1日

地区面積：1,323ha

組合員数：1,300名

水土里ネット二宮は、平成23年に6つの土地改良区が合併し設立されました。

現在は、総代50名、役員22名(理事19名、監事3名)、職員3名(二宮土地改良区協議会と兼任)の体制で土地改良区の運営に取り組んでいます。

6土地改良区が1つの土地改良区として運営していく工夫について取材しました。

◆合併のきっかけはなんですか？

⇒旧二宮町にあった9土地改良区で構成されていた二宮土地改良区協議会において**事務処理の効率化、重複地区の解消**を目的として、水系の関連する6土地改良区で合併を目指す事になりました。

◆合併後、運営上の変化がありましたか？

⇒6土地改良区が1つになったので、事務処理が減りました。合併前は総(代)会、理事会等を別々に開催し、事務局が日程調整や開催案内通知を行い、会議資料を作成していましたが、それが1土地改良区分のみとなり、**事務費も約3割削減**できました。

また、**事務局と役員の連絡体制を整備し、連携を密にする**ようにしました。何かあれば、役員が事務局へ来たり、こちらからも役員のところへこまめに足を運んだりしています。



二宮土地改良区協議会事務局（事務室内の様子）
事務局は3名で対応

◆合同事務所（二宮土地改良区協議会）について教えてください

⇒旧二宮町が主導して平成7年から設置されました。現在は、二宮・二宮中部・長沼西部・清次郎口用水の各土地改良区と三谷地区共同施行を合わせた5地区の事務処理を担当しておりますが、事務経費は受益地割で負担することとなっていますので、運営経費の負担は軽減できます。

また、**情報が蓄積されるので、類似の事案に迅速に対応**できます。

◆今後の運営の抱負をお願いします

⇒今後も**役員と事務局の連携を強化**し、組合員に理解してもらえる運営を心掛けるとともに、行政単位での合併も推進できればと思います。

◆運営における工夫はありますか？

⇒最近、当地区内では若い世代への経営移譲が進み、土地改良事業への理解不足による問い合わせが多くあります。このため、**事務局が役員とともに直接訪問して説明**し、理解を得られるよう努力しています。

また、苦情処理においてもできる限り現地を訪問し、状況を直接聴き、丁寧な対応をするよう心掛けています。

◆運営上の課題はありますか？

⇒合併前からの未収賦課金について、役員や地区委員が訪問して直接話をしていますが、なかなか減少しないことです。



合同事務所窓口
入口に近く誰にもわかりやすく
なっている

県からのお知らせ

■第64回農業農村工学会関東支部大会講演会が開催されました

10月30日(水)栃木県総合文化センターにおいて、県内外の関係者約230名が参加し、小代地区の環境に配慮した圃場整備や下稲葉地区の農村計画など本県の4件の事例発表を含む27件の研究発表が行われました。また、「農業農村における再生可能エネルギーを考える」をテーマに、那須野ヶ原土地改良区連合の星野参事のほか2人の講演がありました。那須野ヶ原での取組事例のほか、栃木発再生可能エネルギービジネスモデル創造特区や、国営中信平二期地区の小水力発電所の事例が報告され、農業農村整備事業における再生可能エネルギーの実情と今後の可能性について理解を深めることができました。



～編集後記～

那須野ヶ原土地改良区連合と二宮土地改良区の役職員の方々に取材のご協力いただき、水土里ネットパワーアップナビ第4号を無事に発行することができました。両土地改良区の役職員の皆様には熱心に取材に応じていただき、大変ありがとうございました。

今後も分かりやすい紙面を目指してまいりますので、紙面の感想や取り上げてほしい題材等がありましたら、下記連絡先までご意見をお寄せいただければ幸いです。